



散歩と公園^{*1}

Walking and Parks

元木 正典^{*2}

Masanori MOTOKI

つくばエクスプレス（TX）が開通する前のJARIの敷地は広大であり、面積は240万平米あった。構内は、様々な樹木や山野草の宝庫であり、雉や渡り鳥に会うことも珍しくなかった。

自動車高速試験場時代の福川場長が桜の植樹に熱心で、構内には色々な種類の桜がたくさん植わっていた。大池周辺には40年前に研究所へ改組した記念に植樹した桜の木があり、植樹者の氏名を記したコンクリート製の標柱が設置されていた。JARIの構内では、桜の苗木も栽培され、近隣の自治体、学校および公園等に苗木を贈呈していた。

TXの工事前には、研究所の本館から高速周回路の管制塔までの道は、約1kmにわたって桜並木が整備され、早咲きの桜から遅咲きの桜まで、3月中旬から5月の連休くらいまでの長い間、桜の花を楽しむことができた記憶がある。

そのころ、私は昼休みに大池を1周する散歩を日課にしていたが、TXの工事が始まってからは中断していた。2年前に工事が終わって、北門までの歩道ができたので、昼休みに北門往復の散歩をするようになった。さらに、今年に入ってから、始業前に、JARIの北門を出て研究学園駅前の葛城地区公園を2周（45分コース）する、もしくは正門を出て科学万博記念公園の外周を2周（55分コース）して、JARIに戻る散歩が日課になった。

ところで、散歩をするコースは、自動車や信号機などに気を遣わないで、自分のペースで自由に歩けることが望ましく、さらに静かで緑が多く、景色が良ければ申し分ない。ここでは、快適な散歩コースのある公園を3カ所紹介したい。

1. カンブルの森

私は、1998年の秋から3年間、ベルギーのブリュッセルにある（社）日本自動車工業会の欧州事務所に勤務した。赴任後9ヵ月間は単身赴任であったが、1999年の初夏から2年3ヵ月間は、家内と次郎（雄の中型犬）がベルギーに来て、一緒に暮らした。娘は日本にいたが、大学が休みの期間は、大部分をベルギーで一緒に過ごした。

赴任直後にアパートを借りる際には、次郎と一緒に住むことができ、一緒に散歩をするための公園が近いことを条件に物件を探して、カンブルの森まで5分ほどの古いアパートに決めた。



次郎（1999年夏、カンブルの森にて）

カンブルの森は、面積が約40万平米の広大な公園で、大きな池がある。芝生とブナの木々の森を巡る遊歩道は、適度な起伏があり、散歩には快適な環境である。毎朝、次郎と一緒にカンブルの森に散歩に行き、帰りに小さなパン屋で焼き立てのバゲットを買うのを日課にしていた。次郎は、パン屋のお婆さんから毎回貰えるクッキーを楽しみにしていたようだ。

*1 原稿受理 2009年3月18日

*2 財団法人自動車研究所 予防安全研究部



カンブルの森（1999年秋）

日本の公園では、リードをつけないで犬の散歩をすることは禁止されている。一方、欧州の公園では、散歩をする犬は、ほとんどリードをつけていない。それでも、吠えたり喧嘩をするトラブルに遭遇することは、ほとんどなかった。犬の種類の違いか、訓練の違いか、室内で家族と生活しているのでコミュニケーションの機会が多いことによるのか、原因については良くわからないが、犬の行動には、あきらかに日欧の違いがあるように感じた。人々の犬に対する対応にも大きな違いがある。電車やバスなどの公共交通機関、ホテルやレストランは、犬と一緒に利用することが認められている。おかげさまで、北はスウェーデンから南はイタリアまで、次郎と一緒に旅行をすることができた。次郎と一緒にホテルに宿泊する際には、追加料金を1,000円程度支払うことが多かったが、登山電車やゴンドラ等は無料であり、一緒にアルプスの山歩きを楽しむことができた。

今でも、次郎の肩には、小さなIDチップ（直径3mm・長さ10mmの円筒形で、生年月日、住所、自宅・勤務先・携帯の電話番号、予防注射の履歴を記録）が埋め込まれている。迷子になった場合には、読み取り機を介して瞬時に情報を把握できる。

2. 大山公園

自宅近くに、北守谷遊歩道（1周2.4kmの楕円形）がある。交差する道路を、4本の歩行者・自転車用の橋が跨いでいるので、自動車にはまったく気を遣う必要がなく、散歩には快適な環境といえる。遊歩道には、大山公園、くわがた公園および立沢公園の3つの公園が隣接している。

そのうち、自宅から最も近いのが大山公園であ

り（距離200m）、面積は大体2万平米、手入れの行き届いた様々な種類の樹木が植えられている。25年前に守谷市に引っ越してきた当時は、多くの樹木にプレートが付けてあり、樹木の種類を覚えることができた。

次郎はこの3月で16歳になった。中型犬の寿命は15年程度といわれているので、人間でいうと80歳は超えているように思える。ここ数年は後足が弱ってきたので、次郎号（ブレーキ付きの台車に、輸送用ケージの下半分を搭載）を用意した。朝晩、次郎は、往復のアスファルト道路では次郎号に乗って移動し、公園では土の上をゆっくりと15分間ほど歩くことを楽しんでいる。



次郎号（2008年秋、大山公園にて）

3. 葛城地区公園

葛城地区公園は、TXの研究学園駅の南側に位置する公園で、面積は大体2万2千平米、芝生の広場、池や多くの樹木がある。やや手狭な感じがするが、JARIの本館から北門までの往復と組み合わせると、なかなか快適な散歩コースとなる。

研究学園駅の一帯は、以前はJARIの敷地であり、この公園は、本館地区から管制塔へ向かう道と、衝突実験場へ向かう道が分岐した場所に相当する。現在、公園にある桜やけやき等の樹木や山野草（特に各種の蘭）の多くは、JARIの敷地にあったものを残している。したがって、公園を散策すると、昔のJARIを懐かしむことができる。

ところで、この公園の名称を、「高速試験場記念公園」もしくは「自動車研究所記念公園」に変更できないだろうか。管理者であるつくば市が、公園の「命名権」をJARIに譲ってくれる可能性を期待したい。